

桜淵自然公園内・豊川左岸の変



新城市の桜淵自然公園内を流れる豊川左岸の河原に通じる進入路の入り口に昨年末、市が車止めを設置、車両の進入ができなくなった。この河原は車両で乗り入れ、川べりでオートキャンプやカヌーなどができる全国的にも貴重なスポット。行楽シーズンはアウトドアライフを楽しむ人が市内外から大勢訪れる場所だけに、大きな影響がありそうだ。県内のカヌー愛好者からも不満の声が上がっている。

カヌー愛好家、アウトドア派ら不満の声

安全優先「盾」に市がマナー悪化駆逐？

車止めを設置した市土木課によれば、増水などで道が崩壊した場合、車両転落などの危険があるというのが閉鎖の理由。進入路は公道ではなく市と県が任意で管理する「里道」で管理義務はないが、事故が発生し

スペースは確保した。公園の駐車場から荷物を運べばパーベキューもできるはずだ

これに対し、河原で30年以上カヌーを楽しんできた東海カヌークラブの唐木満尋会長は「カヌーを楽しむだけでなく、清掃活動やイカダフェスティバルなど市の行事にも積極的に協力し

た場合「責任が問われる可能性がある」。

できたのに相談がないのは納得できない」と憤る。

閉鎖の直接の原因は昨年9月、河原を利用した車両が進入路で立ち往生し、市に「道路が荒れている」と苦情が入ったことだという。だが、河原周辺では数年前から利用者のマナーが悪化、ゴミが山積みとなる問題が起きており、市は閉鎖の機会をうかがっていたとみられる。

さらに「もうここは誰も遊びに来ない河原になるでしょうね。河原へ荷物を運べというが、駐車場から400メートル以上も離れており、大きなものは30キロもあるカヌーを運搬するのは「現実的には無理です」。加えて「全国有数の清流である豊川は新城市の大きな財産。そこから人を遠ざけるような